

川越市の水道事業について



はいすいち
配水池(中福受水場)



川越市マスコットキャラクター ときも

令和8年7月14日(火)
川越市上下水道局 総務企画課

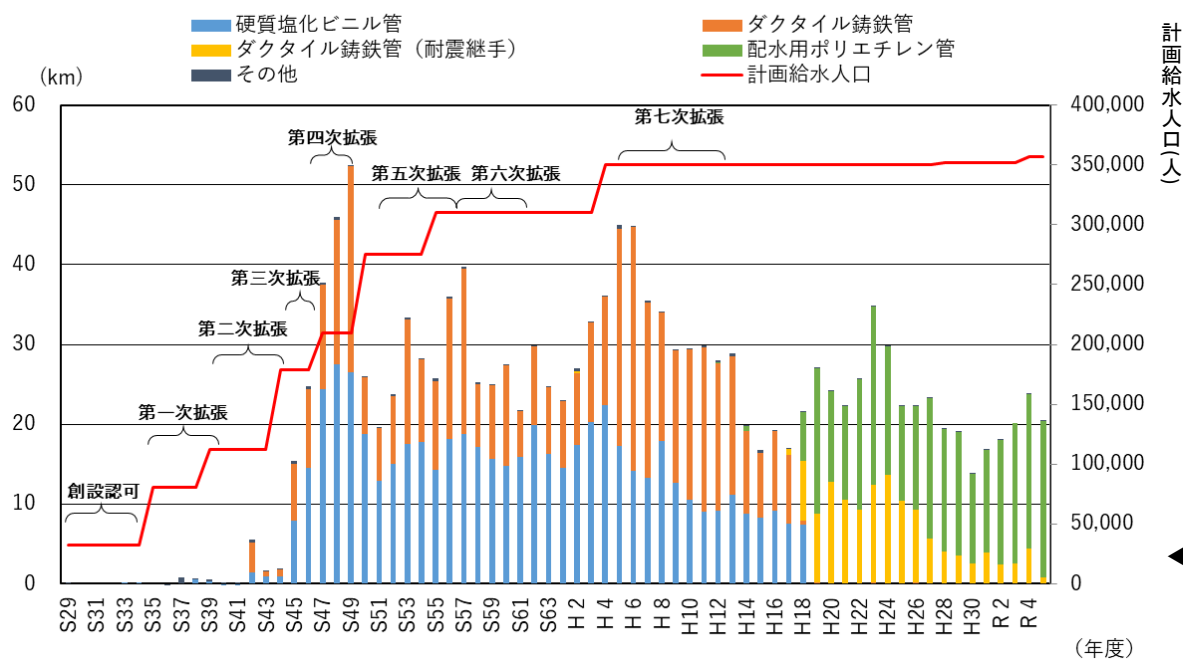
(1) 水道事業の沿革

昭和26年9月25日 事業創設（国による認可）



昭和29年5月1日～市街地の一部に向けて、給水開始

人口増加などに伴う水需要の増加に対応するため、昭和30年代から平成14年にかけて、7回にわたる拡張事業を行っています。



▲ 配水管布設工事の様子
(昭和39年)

◀ 年度別配水管布設延長と
計画給水人口の推移

現在では、市内全域が給水区域となっています。

(2) 水道事業の現況 (令和6年度末時点)

市の人口	352,673人
給水人口 (給水区域内に居住し、給水を受けている人口)	352,623人
普及率 (人口に対する給水人口の割合)	99.9%
年間配水量 (浄水場や受水場から配水した水量)	38,521千 m^3
年間有収水量 (水道料金の徴収対象となった水量)	36,506千 m^3
有収率 (配水量のうち、水道料金の徴収対象となった水量の割合)	94.8%
水道料金収入 (令和6年度決算額)	約51億7千万円

(3) 川越市の水道水について

🔍 川越市では、埼玉県から購入した県水と、深井戸から汲み上げた地下水を合わせて配水しています。

🔍 ・ **県水** ・ ・ 配水量の約 90%

埼玉県の浄水場で浄化処理された県水を購入しています。

なお、**令和8年度より、購入単価が 61.78円/m³から74.74円/m³に引き上げられています (+21.0%の改定)。**

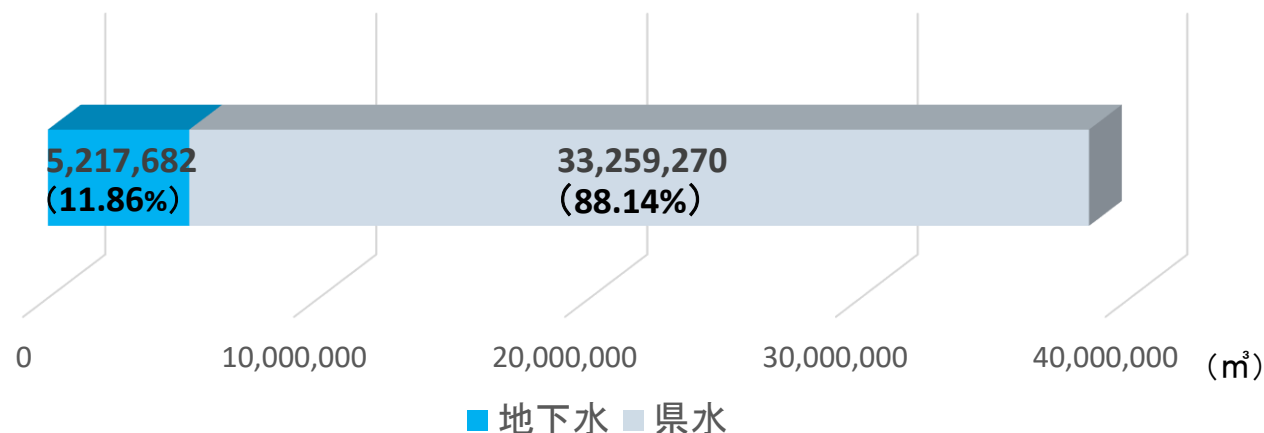
・ **地下水** ・ ・ 配水量の約 10%

市内に41箇所ある地下水源（深井戸）から地下水を汲み上げています。

【令和6年度実績】

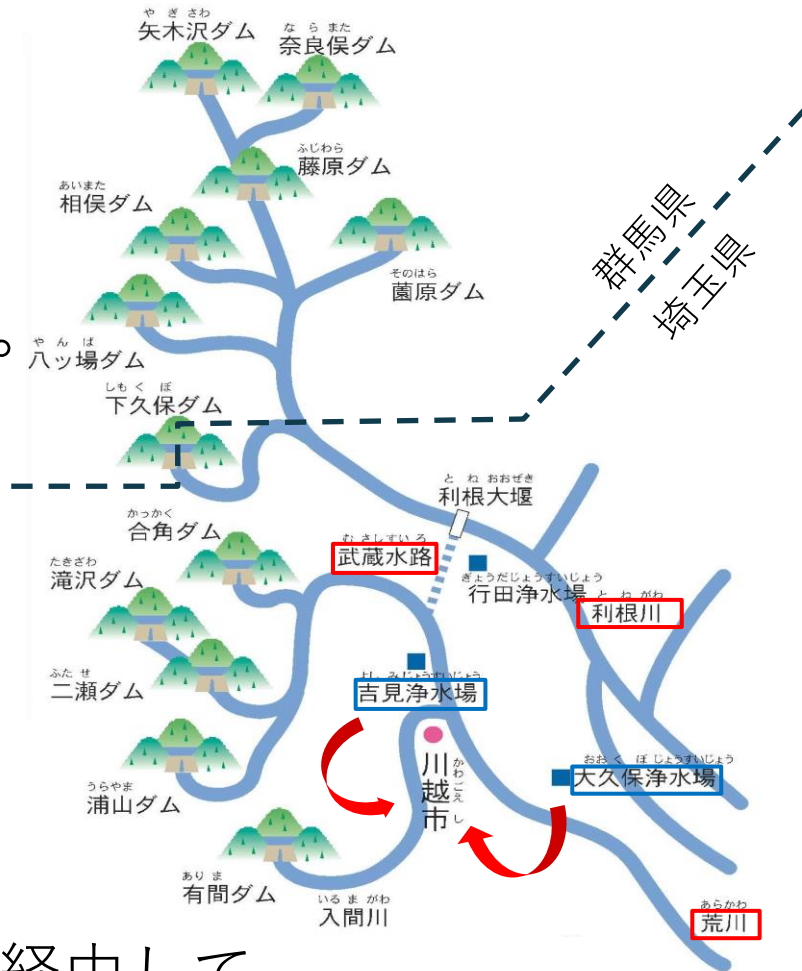
取水量及び受水量

38,476,952m³



(4) 県水とその水源について

- 昭和29年の給水開始後、昭和49年6月までは地下水のみで水道水を賄っていました。
- 一方、市の人口増加に伴い、昭和49年7月からは県水の受水を開始しています。
現在では、主に荒川や利根川の水が使われています。
- 川の上流にあたる群馬県や秩父地方には沢山のダムがあります。これらのダムに貯えられた水は、利根川や武蔵水路、荒川を經由して、埼玉県が運営する「大久保浄水場（さいたま市）」と「吉見浄水場（吉見町）」で浄化処理され、県水として川越市に送られています。



(5) 水道施設について

市内には受水場が1箇所、浄水場が7箇所あり、市内全域への給水を担っています。

・受水場 【中福受水場】

埼玉県の大久保浄水場から送られてくる水（県水）を受水する施設

・浄水場 【仙波浄水場ほか6箇所】

地下水を汲み上げ、消毒処理などを行う施設

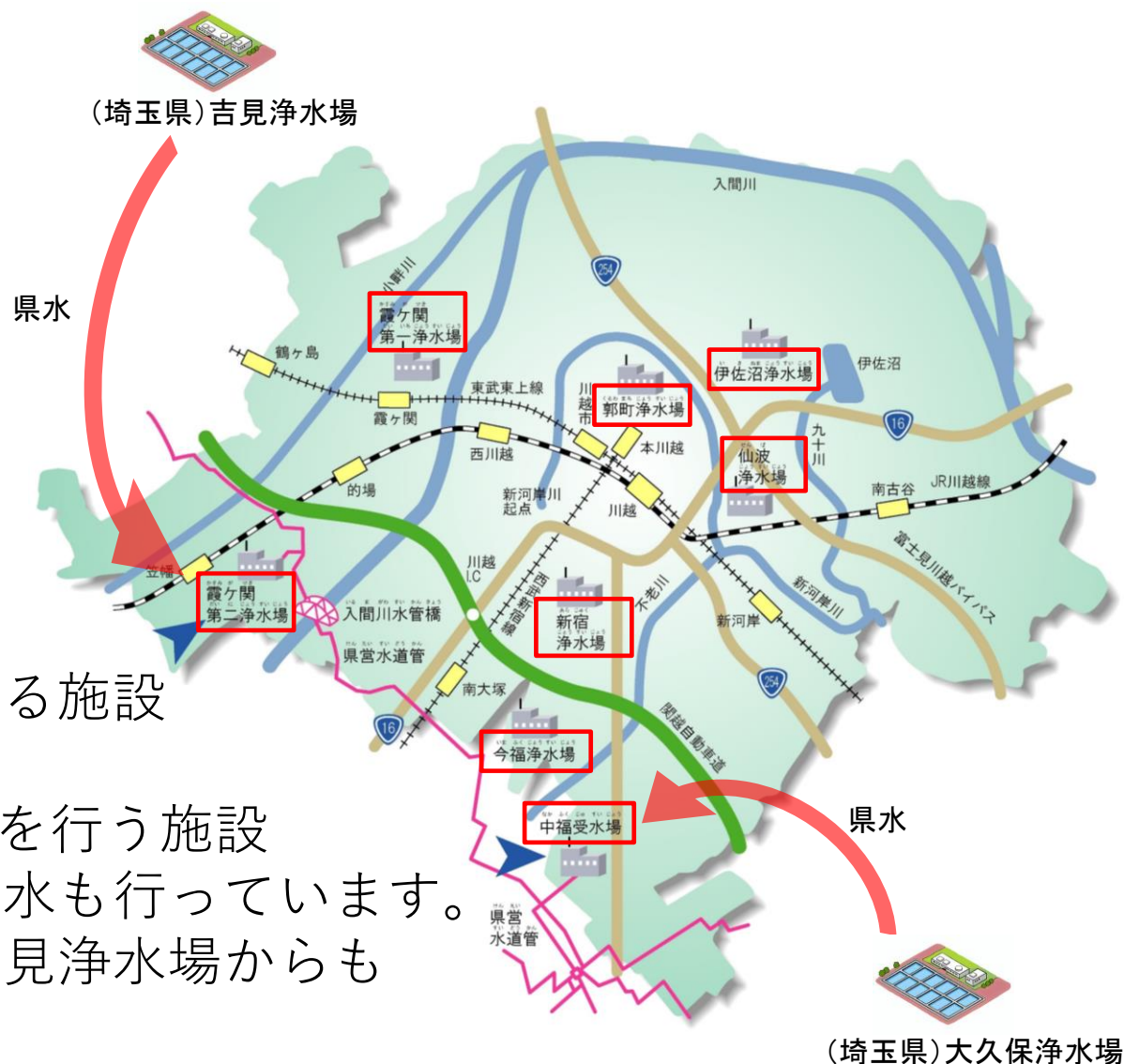
※霞ヶ関第二浄水場では、県水の受水も行っています。
（大久保浄水場に加え、埼玉県の吉見浄水場からも県水が送られています）

水道管（管路）

水道水を送るために必要な管路の総延長は約1,501kmです（令和6年度末時点）。

※川越駅～鹿児島駅間の鉄道営業キロに相当します。

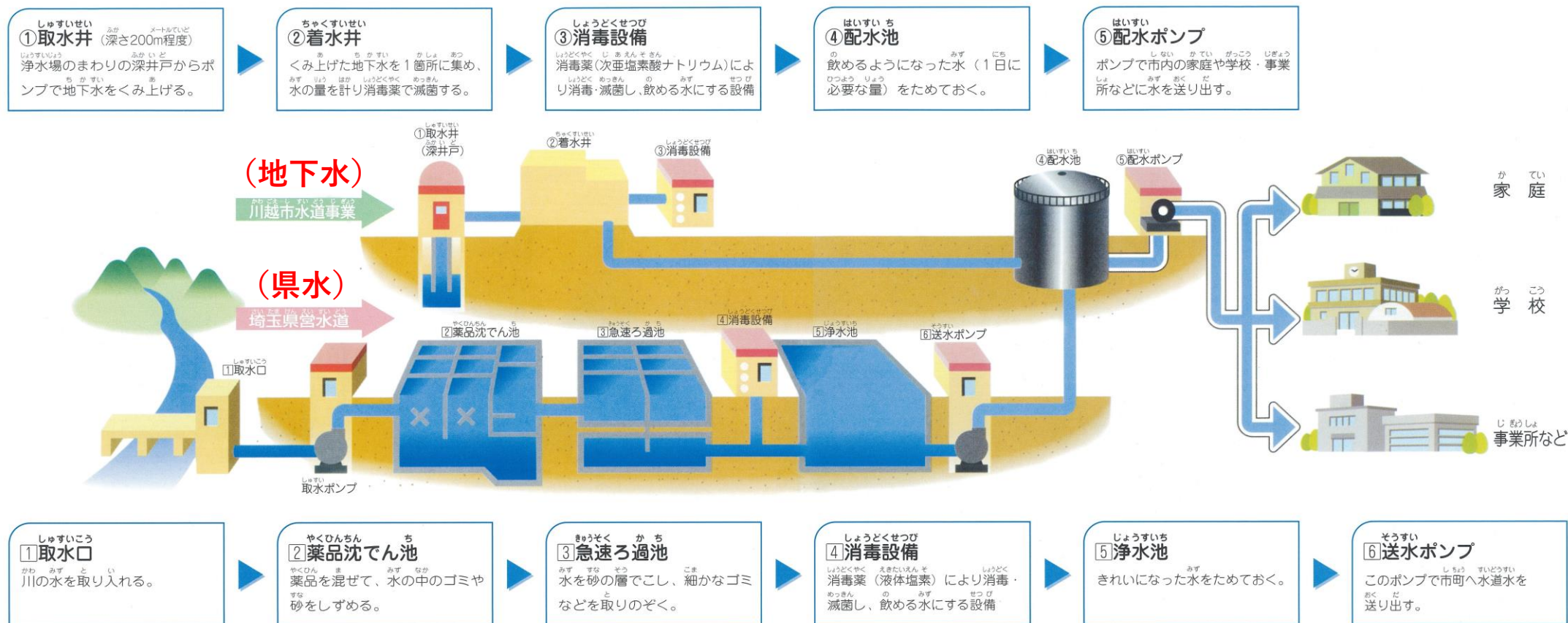
※管路の法定耐用年数は40年です。



【川越市 全図】

(6) 水道水ができるまで

- 川から取水した県水と、深井戸から汲み上げた地下水は、以下の工程を経て、水道水として各使用者のもとに送られています。



- 上下水道局は、これからも安全で良質な水を提供いたします。